

子育て期女性の就労と家事の相互健康影響: baseline data 7-

有配偶者の健康・幸福感

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)
名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学
近藤 康明 (Yasuaki KONDO)
日比野 稔 (Minoru HIBINO)
国際セントラルクリニック

第90回日本産業衛生学会 (2017.5.13, 東京)

目的

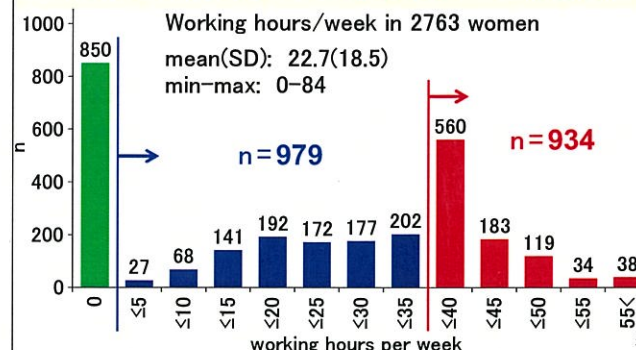
最終目的は、子育て期女性を対象に、就労と家事の負担が与える相互健康影響の評価。

今回は、baseline data から有配偶女性で、就労や子育てと自覚的な健康・幸福感との関連を示す。

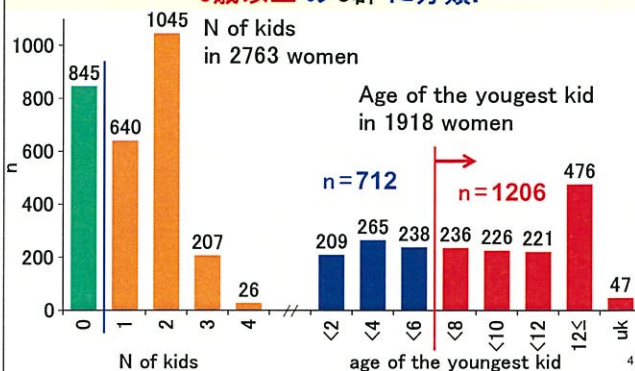
対象者

同意を得た健診受診女性 5,737名のうち、25~49歳の有配偶者から、重複者、休職者、妊娠中、学生を除き、今回の調査項目に欠損のない 2,763名、平均年齢(sd)=39.7(5.0)歳

就労時間 一週の就労日数と一日の就労時間から一週の就労時間を算出。⇒ 無職、週就労時間が 35時間以下、35時間超の3群に分類。



子育て 子の数は0~4人、平均1.25人。
⇒ 子育てなし、末子年齢が6歳未満、6歳以上の3群に分類。



就労時間と子育て、各3群のnと平均年齢

就労時間	子育て / 末子年齢			計
	なし	<6歳	6≤歳	
無職	136 38.6	354 37.2	360 42.3	850 39.6
≤35 h/w (22.9)*	202 39.0	215 37.1	562 42.8	979 40.7
35< h/w (43.3)*	507 37.2	143 37.0	284 42.6	934 38.8
計	845 37.9	712 37.1	1206 42.6	2763 39.7

(*): 平均就労時間

健康・幸福感

健診での問診票で、

健康感は、

「1: とても良い、2: 良い、3: あまり良くない、4: 良くない」から 3, 4 の選択者を「不健康」、

幸福感は、

「1: ほぼいつも、2: ときどき、3: まれに、4: まったくない」から 3, 4 の選択者を「不幸」とした。

結果として、「不健康」は 494名(17.9%)

「不幸」は 222名(8.0%)

交絡因子 6項目 (すべて群変数で multivariate logistic regression analysis に使用)

- 年齢 5群: 5歳間隔
- BMI 4群: 4分位、mean(sd)=20.7(2.9) kg/m²
- 治療中疾病 2群: なし/あり, n=2065/698
- 飲酒 3群: 週アルコール量 0/≤25/25< g/w, n=1443/609/711
- 喫煙 3群: 非/既/現, n=2240/323/200
- 運動 3群: 週運動時間 0/≤100/100< min/w, n=1790/547/426

統計処理

就労時間 3群、子育て 3群、さらに就労時間×子育て=9群で「不健康」、「不幸」の人数を確認。次いで、

前記の全交絡因子を含む multivariate logistic regression analysis を用い、就労時間 3群、子育て 3群の「不健康」、「不幸」の odds ratio (OR) とその 95%CI を求め、OR の群間 trend を検定した。

さらに、就労時間×子育て=9群で「不健康」、「不幸」の OR を算出し、就労と子育ての「不健康」、「不幸」に対する交互作用を検討した。

結果-A 就労時間、子育ての3群別 OR (95% CI) for 'unhealthy' and 'unhappy'

	unhealthy		unhappy	
	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) #	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) #
working hours/week				
none	138 (16.2)	1.00 (reference)	45 (5.3)	1.00 (reference)
≤35	151 (15.4)	0.92 (0.71, 1.19)	78 (8.0)	1.41 (0.97, 2.09)
35<	205 (21.9)	1.46 (1.14, 1.88)	99 (10.6)	2.14 (1.47, 3.14)
<i>p</i> for trend		0.002		<.001
age of the youngest kid				
no kids	148 (17.5)	1.00 (reference)	73 (8.6)	1.00 (reference)
<6 years	119 (16.7)	1.00 (0.76, 1.33)	28 (3.9)	0.44 (0.27, 0.69)
6≤ years	227 (18.8)	0.90 (0.70, 1.16)	121 (10.0)	0.96 (0.69, 1.36)
<i>p</i> for trend		0.417		0.916

#: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

結果-B 就労時間×子育ての9群別 OR (95% CI) for 'unhealthy' and 'unhappy'

working hours/week	age of the youngest kid		
	no kids	<6 years	6≤ years
	adjusted OR (95% CI) for 'unhealthy' #		
none	1.00 (reference)	0.96 (0.56, 1.71)	0.88 (0.51, 1.54)
≤35	0.85 (0.46, 1.59)	0.96 (0.52, 1.78)	0.82 (0.49, 1.41)
35<	1.22 (0.73, 2.09)	1.66 (0.90, 3.11)	1.45 (0.85, 2.55)
<i>p</i> for interaction	= 0.851		
	adjusted OR (95% CI) for 'unhappy' #		
none	1.00 (reference)	0.65 (0.27, 1.70)	0.88 (0.39, 2.17)
≤35	1.22 (0.51, 3.13)	0.53 (0.18, 1.55)	1.36 (0.66, 3.20)
35<	1.71 (0.82, 4.03)	0.79 (0.27, 2.31)	2.17 (1.02, 5.18)
<i>p</i> for interaction	= 0.680		

#: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

まとめ

- 就労時間が長いと健康感、幸福感とも低い。
- 子育ては子の年齢にかかわらず、健康感と関連なし。幼年児の子育て期は、子育てなしや年長児の子育て期に比し、幸福感が高い。
- 就労と子育ては相互に独立して健康・幸福感と関連する。

対象者を7年間追跡しており、子育て期女性の就労や家事が生活習慣や健康指標に与える中期的影響を示す。

なお、研究経過を下記 HP に順次開示している。
<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>

この研究は、

名古屋市立大学 大学院医学研究科 倫理審査委員会の承認を得ている (No. 359-4)。

三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の助成金と文科省・科学研究費 (23590805, 26460750) を用い、

国際セントラルクリニック (名古屋市中村区、理事長: 内藤靖夫) の多くの受診者と職員の協力で実施している。

COI: none